

インド金融政策（2023年8月）

物価見通しを引き上げたものの、利上げ再開の可能性は依然低い

2023年8月14日

物価上昇は一過性で、良好な景気を背景に海外からの投資が続こう

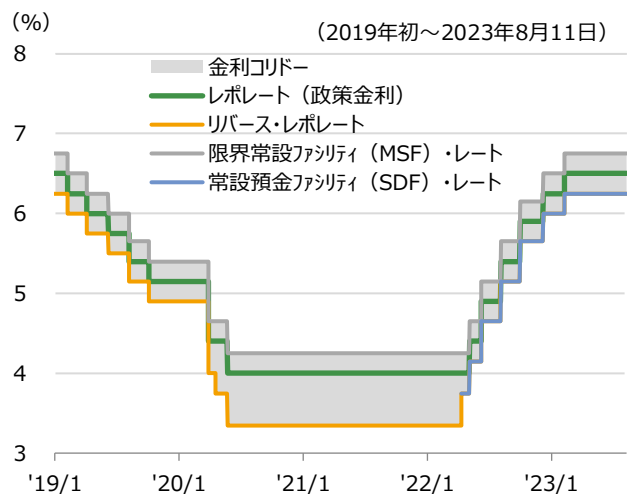
インド準備銀行（中央銀行）は8月10日（現地）に終了した金融政策決定会合で、市場予想通り全会一致で政策金利であるレポレート（政策金利）を6.5%に据え置きました【図表1】。声明文では年後半の物価見通しを引き上げましたが、物価の上振れは一時的としており、利上げ再開の可能性は依然低いと見込まれます。

市場が注目する物価見通しについて声明文では、7-9月期の消費者物価指数の前年同期比予測値を中銀のインフレ許容範囲の「2-6%」を若干上回る+6.2%としました【図表2】。ただ、足元の物価の上振れに関しては、トマトなどの野菜価格の上昇が主因で、新入荷により価格が安定化に向かうとしました。また、エルニーニョ等の動向に注視するとしつつも、7月の夏作物の作付けが平年を若干上回るまで改善するなど、持続的なインフレ圧力は限定的との見方を示しました。

また、中銀は市中銀行の一定期間の預金増加分に対し、現金準備率（中銀に預け入れる預金の比率）を引き上げる流動性吸収策を発表しました。ただ、これは最高額紙幣の2,000ルピー札の流通停止による銀行への預金殺到に対処するための2週間の時限措置であり、金融引き締めへの転換ではありません。

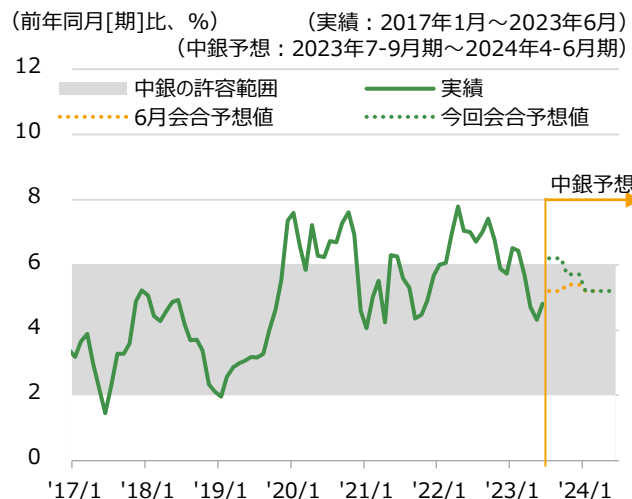
景気に関して中銀は、外需が弱いにも拘らず、家計消費と投資活動等の堅調な内需に下支えされ、底堅く推移しているとの見方を示し、2023/24年度（2023年4月～2024年3月）の実質GDP成長率を前年度比+6.5%に据え置きました。良好な景気見通しを背景に、海外からの投資の継続が見込まれます。

図表1 主要政策金利および金利コリドー



※金利コリドーとは、銀行間オーバーナイト金利の誘導目標レンジ。中銀は22年4月8日にコリドーの下限を変更。(出所) ブルームバーグ

図表2 消費者物価指数



(出所) ブルームバーグ、インド準備銀行

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。